

トーク「国境を越えてークリエイションの可能性」
 レクチャー・ワークショップ「身体で話そう！」

バレリーナ
 針山 愛美



生い立ちから世界各地を拠点に踊ってきた経験、近年の制作コラボや国際交流事業が、様々な写真や映像を交えて紹介された。13歳で見たソ連の街並みや美術館に衝撃を受け、16歳で片道切符を手にポリシヨイバレエ学校に留学。十月政変が起こり、戦車を目の当たりにする。その後2ヶ月は外出も出来ず、言葉も分からず日々身の危険を感じつつも、両親が出してくれたのだからバレリーナにならないと、と心に誓う。一日を無事に終えることのできる幸せが今の土台になっている。

18歳でバレエ団に入団。お給料をもらえるようになった為、両親に今後負担をかけることがあればバレエはやめると決意。混乱の中、日々治安の心配をしてはいたが、優れた作品を毎日安く観ることができ、心はとても豊かだった。19歳でパリのコンクールで銀メダルを受賞。安全で美しい街に驚き、欧州に移る決意をする。その後ドイツのバレエ団に入団するも、時

期尚早だった。貧しく、撃たれる心配はあるものの人情があったロシアと、契約社会のドイツとの違いに戸惑い、契約半ばで退団。ジャクソン・コンクールで米国のバレエ団との契約が決まり、様々な都市で踊る。しかし労働組合が強い米国では指揮者が帰ってしまうこともあり、良い作品を踊りたいだけの自分の気持ちとは何かが違うと感じ、5年で米国を去る。その後マラーホフのオーデイションを受け、今に至る12年のベルリン生活が始まる。人々の心の中にあるものに伝え、感動や明日への活力を与えられたらという願いは、25年間どの国でも変わらなかった。



ワークショップでは、子どもから大人まで参加者が身体を使って数字を書き、影絵をし、『白鳥の湖』の有名な場面を踊り、会場は温かい笑いと拍手に包まれた。最後にサプライズで針山氏振付の『ドリーム』と『瀕死の白鳥』の2曲が披露され、会場は歓喜に沸いた。終演後、来場者が列をなし、急速写真撮影とサイン会が行われた。

Profile
 針山愛美
 HARIYAMA, Emi

●ポリシヨイバレエ学校を卒業後、モスクワ、エラセン、米国を経て、2004年ベルリン国立バレエ団に入団。クラシックから新古典派まで幅広いレパートリーを持つ世界的なバレリーナ。国際コンクールでの受賞歴多数。世界各地でインターナショナルワークショップを主催し、2016年「日米リタイアメントワークショップ」にも選ばれている。TBS「情熱大陸」で特集された他、「ドイチエ・ウエレ」でもドキュメント番組を放送された。ウェブマガジン「ダンスキューブ」で「バレリーナのベルリン日記」を連載中。